

平成26年度児童生徒の学力調査の状況と対応について

真室川町教育委員会

児童生徒の学力向上には、学校だけではなく、保護者をはじめ、町民の方々に子どもたちの現状を理解していただき、学校・家庭・地域が連携して取り組むことが大切です。本町の教育施策を更にすすめて、子どもたちの「まなびの力」を伸ばすため、平成26年度の全国標準学力検査と全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせいたします。

1 全国標準学力検査について

(1) 内容について

<調査の目的>

- ・各学校が前年度の学習がどの程度定着しているかを把握し、結果を次の学年の学習に役立てる。

<調査の対象と内容>

- ・小学2・3年生で国語と算数、小学4～6年で国語・社会・算数・理科
- ・中学1年で国語・社会・算数・理科、中学2・3年で英語を加えた5教科

(2) 結果について (偏差値による比較)

<小学校の結果>

- ・2年生及び6年生の算数では、全国平均とほぼ同じであり、これ以外の教科は全て全国平均をやや上回っている。
- ・2年算数「数と計算」、3年算数「図形」、6年算数「数と計算」「量と測定」で全国平均より下回っているものがあるため、苦手とする領域についての改善を課題としている。

<中学校の結果>

- ・全国値を上回ったものは1年生理科・3年生国語であり、他の学年教科は全国平均をやや下回っている。特に3年生の数学では全国平均を下回っている。
- ・数学と英語については、毎年全国平均を下回っており、特に数学の「数と式」・「関数」、英語の「話すこと」、「聞くこと」に課題がある。

2 全国学力・学習状況調査について

(1) 内容について

<調査の目的>

- ・文部科学省が全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証して改善をはかること、また、各学校については学力・学習状況を把握し、教育指導や学習状況の改善に役立てる。

<調査の対象と内容>

- ・全国の国、公、私立学校の小学校6年生と中学3年生
- ・教科に関する調査として、国語と算数・数学の2教科について「知識(A)」「活用(B)」に關しての学力調査
- ・質問紙による児童・生徒の生活習慣と学習環境等について調査

(2) 教科の結果について (平均正答率による比較)

- ・小学校国語A・Bについては全国をやや上回っているが、中学校国語Aについてはやや下回り、同Bについては下回っている。
- ・小学校算数A・Bについては全国をやや下回り、中学校数学ではA・Bともに下回っている。
- ・小学校国語では、自分の考えを整理し、文章で表現・記述すること、中学校国語では、複数のまとまった文章を短時間に正確に読み取ることに課題がある。
- ・小学校算数・中学校数学ともに問題の条件に合わせて必要な条件を整理し、根拠を明確にして説明することが苦手である。

(3) 学習や生活状況について

(単位：%)

項 目	小 学 校			中 学 校		
	町	県	全 国	町	県	全 国
読書への興味	80.3	75.9	73.0	72.6	69.9	69.4
平日の読書時間 (2時間以上)	3.0	5.7	7.6	6.5	6.1	6.7
(漫画・雑誌以外) (30分以上2時間未満)	45.4	32.2	30.6	35.5	26.0	24.7
(30分未満)	51.5	62.1	61.7	58.2	67.8	68.5
平日の家庭学習時間(2時間以上)	13.6	15.0	25.8	16.1	28.7	35.1
(30分以上2時間未満)	86.4	80.2	61.4	66.1	62.2	50.1
(30分未満)	0	4.7	12.7	17.7	9.1	14.7
携帯・スマートフォン所持率(所持なし)	63.6	57.6	46.3	32.3	34.6	23.5
テレビ等を見る時間(2時間以上)	78.7	65.9	61.3	66.1	57.9	56.5
テレビゲーム等をする時間(2時間以上)	31.8	29.4	30.3	27.4	33.2	35.4

は課題と思われる項目

- ・読書への興味は小学校及び中学校ともに高く、平日の読書時間が30分以上である児童生徒は県及び全国平均より多い。
- ・小学生では、家庭学習の習慣が身についていると考えられるが、2時間以上学習する意欲の高い児童の割合が少ない。
- ・中学生では、県及び全国平均に比べて30分未満である生徒の割合が多く、2時間以上学習するなど意欲的に学習に取り組む生徒の割合が少ない。
- ・テレビやDVDを見る時間が県及び全国平均よりも長い。



3 学力向上にむけて次のような取り組みを各学校で進めます

- (1)「子どもたちが自分の考えや解決方法を自分の言葉で表現させる授業」「みんなでかかわり合いながら学びを深める授業」「子どもたちの学ぶ意欲を引きだし、精一杯考えることのできる授業」づくりを推進します。
- (2)一時間一時間の授業を大切に、基礎・基本的な学力を定着させ、学び方を身につけさせるための工夫した取り組みを大切にします。
- (3)読解力を高める授業を意図的に取り入れ、読書活動についても質・量ともに高めるための取り組みを強めます。
- (4)家庭学習を促す取組みを工夫するとともに、家庭学習の内容を吟味し、習慣化をはかるために、家庭との連携をすすめます。

4 学校と保護者・家庭との連携について

学力向上のためには、学校の授業の充実にあわせて、家庭での過ごし方も大きく影響します。「早寝・早起き・朝ご飯、読書、家庭学習とセーブメディア」の取り組みをすすみましょう。

- (1)「早寝・早起き・朝ごはん」「元気なあいさつ」「家事の分担」などの基本的な生活習慣の確立としつけが学ぶ力の土台となります。
- (2)学力を伸ばす生活習慣、食習慣、学習習慣、読書習慣を大切にしましょう。
- (3)うまくできたときの賞賛、うまくいっていない時の励ましなど、子どもの取り組みにより添った支援を心がけましょう。
- (4)家庭学習を2時間以上行う児童生徒は学力が高い傾向にあります。学校での学習はもちろんですが、「家庭で自主的に学習することができる」ことが大事な力となります。
- (5)メディアを利用する時間は2時間以内とするなど、家庭でルールを作り実践することが重要です。
- (6)部活動やスポ少の活動にあっても、バランスのとれた健全な生活リズムを確立することが大切です。夜間練習の場合でも、小学生は午後8時30分、中学生は午後9時までは帰宅できるように活動時間を工夫するなどして、子どもたちが充実した家庭学習に取り組める環境づくりをお願いします。

真室川町教育委員会教育課(☎62-2305)